

「導入ICT機器名」導入による生産性の向上

課題

紙を使った作業が多い・電話連絡による情報共有に時間がかかっている、との理由により、情報伝達・情報共有に時間がかかり、職員の業務時間を圧迫する状態となっている。
具体的には、業務用の無線LAN設備がなくクラウドサービスをつかった情報共有が十分に出来ない状態になっている。情報伝達を手書きで紙媒体で行うことが多く、業務効率が向上しない。
フロアによっては電話機の設置が無い事務室があり、他のフロア(階)で受けた電話連絡について、異なるフロアへ移動して口頭で情報伝達するなど、業務以外の時間によって本来の業務が圧迫されている。

電話主装置
スマートフォン
アクセスポイント

機器導入

成果

- ①業務上の質の向上
スマートフォンを使った電話機内線化により、情報連絡をスムーズに行うことが可能になった。例えば、フロアが異なる職員に対して、スムーズに連絡を取ることが出来る、等。
- ②量的な効率化
フロアをまたぐスタッフ間情報連絡(1日あたり10件程度)について、スタッフの移動・業務時間の削減
(3分×10件=1日30分の移動・業務時間を短縮)

ICT機器等を導入した業務内容(概要)

- ①情報共有をクラウドサービス（GoogleWorkspace）を用いて行うこと。
紙媒体に手書きするのではなく、クラウド上に保存されたデータを共同編集によって資料作成が完成するように変更。
会議の議事録・業務の進捗確認等、主に職員間の情報共有についてクラウドサービスを利用して情報共有を行う。
- ②電話による情報連絡をスマートフォンを使った電話機内線化により対応する。
新たにスマートフォン内線化（スマートフォンをビジネスフォン子機のように利用すること）に対応した電話機主装置を導入することで、フロアが異なる職員に対して、スムーズに連絡を取ることが可能になった。

事業所におけるICT機器等導入の推進方法

電話機主装置、スマートフォン、アクセスポイントの導入をメール・チャットで周知し、あわせて使い方のマニュアルを添付することで新たな利用方法の定着を図った。